

県立病院事業評価委員会からの評価・提言事項

平成23年12月22日

県立病院事業評価委員会

総括的評価

平成23年度上半期は、入院患者が減って外来患者が増え、収支面では昨年同期とほぼ横ばいの状況となっている。

患者動向は、DPCの推進に伴い患者の治療計画の見直しを行い平均在院日数の短縮が図られたことや、がん治療等の化学療法について対象の患者を入院から外来に移行したこと等によるものであるとのことであるが、これに伴い病床利用率が減って、それに見合うだけの収入の確保が必要になると考えられる。

今後とも同様の患者動向が続くと考えられるので、病床利用率が高まるような取組をお願いしたい。

個別の提言等

1 経験看護師

平成22年度より経験看護師の募集要件を緩和し、良質な人材育成の確保に努めており、一定の評価はできるものの、県内の民間病院等と看護師の奪い合いにならないよう、県外の大都市等で本県出身の看護師を確保するようさらに努力していただきたい。

2 一人一改善運動

経営改善は全員参加しながら取り組んでいくことが重要で、そのためには一人一改善運動は効果があると考えられるが、年々提案件数が減少してきているのが気がかりである。

また、この2～3年で業務改善に関する提案の割合が増えてきているのは評価出来るものの、全員の意識を経営改善に向けるという意味で、提案件数の増加も追求して欲しい。